

第9回委員会 会議要点録

平成19年10月11日 18時30分～21時00分
多摩市役所 特別委員会室

出席者：檜垣正己委員長 江尻京子副委員長 伊藤雅子委員 大木貞嗣委員 笹島正一委員 白鳥光洋委員

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主事 企画課主任

審議

- 政策提言について

今後の予定

- 第10回 11月14日(水曜) 18時30分～
- 第11回 12月13日(木曜) 18時30分～

【自治推進委員会】

委員 前回、多摩市行財政再構築プランの総括に対する意見を市長に提出した。今回は、再構築プラン後の政策提言として市民参画白書、人材活用について提案したい。みなさんに自由な発言をしていただきたい。

今までに提案のあった政策提言は、食育等いろいろ出ている。他のものを取り上げるか、まとまりたい提言するのか、数をしぼって提言するのかを決めたい。

委員 人材活用は多岐にわたる。今まで話した中で、コーディネーターが必要だという話が出た。ボランティアでも、多岐にわたるので、どこにターゲットを絞ればいいのか。災害弱者に対して手を差し伸べることも範疇にはいるのか？

委員 地域の問題を解決するために人材が必要。問題が明確でないと人材の必要性がわからない。1+1を3にするため、連携をとったり、コーディネーターをつけたりすることが人材活用だと思う。地域では自治会長やコミュニティセンターの会長が地域での信頼を得ていて、地域での取りまとめ役であり、地域に根ざした長老としてとりまとめをする人がいる。そういうものも人材活用では。

委員 人材活用というのは大きい。エコにこセンターでは、食器の回収をしていて陶芸をやっているが、市民から電話で粘土はいりませんかという話があっ

た。たくさんあるので、遣って欲しいということだったが、エコにこセンターでは不必要だったので市民活動推進センターを紹介した。市民はこのような場合、どこに相談していいのかわからない。私自身もわからなかった。もう一つ別の話で、木工教室はやっていませんかとエコにこセンターに問い合わせをしてきた男性がいた。自分で自由に工作をする場所がないのかという内容だった。そういう場所は設けていないが、代わりに道具を貸していることを言ったところ、人材活用を多摩市はしないのかということ言われた。その方が言うには、今までは、グループで活動している人たちは良かったが、これからは一人で活動している人が問題で、どこで活動していいかわからない。団塊の世代を含めて一声あれば集まれる人材を活用する気はないのかということだった。市民にはわが身を含めて活用して欲しいという欲求があるのではと。そして、その人材を活用する場が市民活動情報センターで、人材活用の仕組みづくりを今求められているのかなと思った。市にコーディネートする機関を作って欲しい。

委員 まず、人材と言う言葉に委員会で共通の理解を持ち、それから活用を論じたい。ここでいう人材とはどういう人か？有能な人という解釈がある。一般の人ではなく識者という解釈もある。どういう場面で有能な人に活躍してもらうのか？ボランティアもいろいろな活用がある。人材とはその人が持っている特技才能を、求めている人に対して斡旋をすることか？街づくりをする場合は人材があったほうが良い。そういう意味での人材もある。

委員 それぞれの市民にそれぞれの才能がある。朝日新聞で多摩ニュータウンの記事が連載されている。才能を活用したい人、利用したい人の間にミスマッチがあるようだ。木工教室や粘土の例は、エコにこセンター以外にもあるのか？

委員 イメージ的にそこなのかなと思われているのでは？リサイクルだとエコにこセンターでごみだとエコプラザ多摩というような。

委員 市ではどうか？

事務局 一義的には市民活動情報センターを案内している。

委員 公民館に登録して活動しているグループに繋げるため公民館に問い合わせるよう案内する。市のいろんなことに精通して、さっさと繋いでくれる人が必要だ。知人の経験によると市に福祉の問い合わせをして、たらいまわしに遭ったことがあった。

委員 ワンストップソリューションという言葉がある。絶対たらいまわしにはしないということだが、難しい。会社のことを全部把握しなければならないから。

委員 市にはそういうのがあるのか？

事務局 市民相談室があるが、ワンストップソリューションはまだ確立していない。

委員 その人たちが精通していればある程度はできるか？

事務局 市民相談室が所管を把握しているからある程度はできる。

委員 そのことを広報で周知する必要がある。市民相談室に問い合わせをすればわかるということが市民に伝わればよい。また、市民相談室は責任をもって各部署にまわすことが必要。

委員 なかなか難しい。皆様の話で共通することはきちんとしたコーディネーターがいないということだ。

委員 人材という言葉の共通認識として人材を経験で括るのか？また、人材バンクは年齢制限がないものなのか？ということなどの認識を私たちのなかでまとめなければならぬと思う。

委員 団体活動を例にするとわかりやすい。団体構成員が一つの目的に向かって活動を行うことになるが、団体内の運営が難しいので、外部からそういう人材を派遣してもらう。そうすると謝礼の問題がでる。ボランティアだと喜ばれる。だから人材バンクのようなものがある。必要に応じて派遣してもらい、謝礼無しで才能ある有能な人の力を借りる。子ども会等の団体は地域のお母さんが面倒を見る。同様にグループも専門的な人が面倒を見ていなければ動かない。

委員 団体以外でもそういうやり方がうまくいくか？団体はもともとかたまっているからよいが、個人の集まりではうまくいくか？

委員 社会教育の領域で、集団活動を教育委員会が奨励するが、その一環で登録してもらった人を派遣してもらう。

委員 登録した人で、謝礼がなくとも要請があれば派遣に応じる人がいるのか？

委員 謝礼がなくてはということではない。人材バンクは一種の斡旋であり、役所の講習会のように、講師派遣のようなものではない。人材バンクは職業紹介とは違う。専門の先生に専門の講演をしてもらうのでは人材活用とは違う。

委員 人材活用の一つの前提はボランティアであり、シルバー人材センター等とは分けるべきだろう。

委員 費用弁償ぐらいは考えないといけない。

委員 学校の教員は才能のある集団だと思うが、英語を教えて下さいといえど教員を派遣してくれるか？

委員 教員のボランティアというのは難しい。

委員 経験上で結論をいうと極めて難しい。学校に問い合わせすると、どういう状

態で派遣するのかなどと聞かれるので、教師を一本釣りして個人的に来てもらうしかない。しかし、小中学校の先生は激務で土日に来て貰うのは難しい。来てくれる先生はいいよと言ってくれるが。

委員 地域の学校が、地域の人にボランティアの募集をかける場合もある。地域の人々がボランティアとして学校に集まる。集まるのは学校であり、まとめるのも学校。事業の一環として行っている。先生ではなく地域の住人をボランティアとして使っている。

委員 事故があったとき、指導不足という理由でボランティアの方の責任を問われた事例がある。事故があった場合は責任をとられないという条件がないと来てくれない。人材がそのようなことに対して心配なく能力を発揮できるようにしなければ。

委員 今は責任を問う時代になっているのでは？

委員 事故が起きたら困るからやらないというのはあるが、やるからには責任をとるということになるのか？通常は責任をとられるということはないと思うが。

委員 街の力になる人材を育成する。経験をもっている人で自己申告する人たちが集まりやすい。それが団体になり経費の問題などから、経理を扱える人の必要がでてくる。何段階もの人材の意味がある。私は環境省指定の環境カウンセラーをやっていて、ホームページでいろいろな人から問い合わせがある。本当は地域の人に相談したかったがわからなかったので仕方なくという方がいた。本当は地域の人や学校に相談したいという方が多いのでは？

ごみのことで例を挙げると、レジ袋削減の説明会をしている人の中には、多摩市の環境に携わっている職員や市民がいる。このような例も所謂キャリアを活用している人材活用だと思う。もう少しみんなが知るような形でできれば人材活用が広がるのでは？

委員 対価を得て仕事をするものは除き、また、公的な組織を利用するのではなく、地域のボランティアを利用する場合、幹事がいないとうまくいかないのでは？そのために市民活動情報センター、シルバー人材センター等の包括的な相談ができるようなコーディネーターが必要だ。

委員 先程、環境カウンセラーの話がでたが、横浜市ではライセンスカードで認定する仕組みがある。2、3年前にできた。しかし、データベースをつくりっぱなしではうまくいかない。幹事がいないと。

委員 行政ではいろいろやっている。器とか仕組みは整っているが、市民活動の仕組みという面で、お年寄りの支援や環境問題はわれわれの議論のターゲットだと思う。現状のものを組み合わせて、ルールを作っていけばよい。多摩市では、グリーンボランティアに140名ほどの人がいるが、その人たちにライ

センスを持ってもらう。公園緑地課の指導で、指導能力等が向上した人に対しては、ライセンスのランクを上げてさらに箔を付けるという手段もある。

委員 連携が必要だ。いろいろな仕組みはあるが連携ができていないのではないか？ うまくいくにはどうすればよいのか？ 活用して組織を束ねていくにはどうすればよいのか？

委員 市役所の窓口は敷居が高い。例えば、ごみのことで相談に行くと障害者なのだから障害福祉課へ 行けといわれる。だから役所以外のところで話を聞いてもらいたいというのがあるようだ。エコにこセンターは半民半官だから市民から相談を受ける。市民活動 情報センターも民間の団体と合体して市民が行きやすいような場所になれば良い。市民からは役所の縦割りのイメージが抜けない。コーディネーターの役割をいつも考えているが、多摩市でも再雇用職員にそういう役割をさせて市役所業務のトータルの状況を把握できれば、市民は相談に行きやすくなるのでは？

委員 子供なんでも相談室のような。

委員 社会福祉協議会ではどうか？

委員 ボランティアセンターを社会福祉協議会にまかせるというのはいかが？ サービスを受けたいという人がいるが、自分からサービスを提供する人は少ない。サービスを提供してくれる人を増やすこととサービスを提供する人と受ける人との需給を合致させることが必要。政策提言という以上、今やっていることを抜きにしてはだめ。市民の力でできるだけやることを念頭においておくこと。多摩市にいろいろある 団体をどう組み合わせるのか。そこから政策提言ができる。

委員 コミュニティセンターでは、趣味ではいくらでもグループは立ち上がるが、生きていくための学習は、コミュニティセンターの中では立ち上がらない。図書館などの窓口はいっぱいあるが、多摩市は市民への教育ということに関してはたいしたことはない。教育の啓発が必要。

委員 公民館の宿命か予約をとるのが難しい。環境だとか福祉とかいろいろなものが連携するといろいろなことができるのでは？

委員 パルテノン多摩で環境一色のイベントを企画する。

委員 人が集まらないだろう。人を集めないと意味がない。

委員 国際連合の PR をしようとしても人が集まらない。映画会を開くと人が集まる。シンポジウムやパネルディスカッションのようなそれ単体だけではない、組み合わせることによって効果的な方法があるのでは？ 新しい分野を開拓できるのでは？

- 委員 テーマが大きくていろいろな面があるので難しい。
- 委員 人材の話はどこに焦点を当てるのが難しい。市が直接やるのか、民がやるが、市が財政や人材の支援をするのか。どこを議論するべきかはっきりしたほうが良い。
- 委員 市民活動情報センターが良い。しかし、多摩市がやっているため役所ということで抵抗が市民にはある。ウェブサイトも市民の立場に立ったやわらかさがもう少しあると次の活動に結びつくのでは？ 情報センターにも運営委員会があるが、再構築したほうが良い。
- 委員 コーディネーター機能を果たすのは情報センターだろう。NPO センターや民間委託を提案しても良いし、情報センター、ボランティアセンター、NPO センターが連携してできるようなものを提案し、それを軸に活動してもらうのも良い。環境とみどりを テーマにした、幅広く環境に関するイベント、みどりの日のようなものをおこなっても良い。
- 委員 市民活動情報センターとボランティアセンターの事業の関係は？ 市民活動情報センターとボランティアセンターが同じ場所にあっても別々にやらなければならないか？
- 事務局 団体の発足の趣旨があるが別々にやることはないと思う。
- 委員 そういうものが身近にあると良いと思う。合併してもらったほうが市民側としてはわかりやすい。
- 委員 市民活動情報センターから話を実際に聞いてみる必要がある。
- 委員 そういうことも良いかもしれませんね。
- 事務局 市民活動情報センターとざっくばらんに話してもらうのは良いでしょう。
- 委員 最終的には組織を一本化するのがいいと思うがそれまでは連携を密にするのが良い。中間センターの連絡会はあるか？
- 事務局 システム的なものはない。
- 委員 センターの長に来てもらうことは可能か？
何を聞くか整理しておかなければならないが。実際に話を聞きに行くほうがよいか？
- 委員 市民活動情報センターは直営か？
- 事務局 直営です。
- 委員 市民活動支援に関する意見を活発にするにはどうすればよいのか。近い機会に意見を聞かせてください。政策提言のまとめるため市の担当者の話を次回聞く。提言をするのはどういう内容か。今年中に、次回は政策提言を形

にしたい。食育の推進、チャイルドラインで、現在、市には委員会があると思うが。

事務局 食育については副市長を中心に内部で情報交換をしている。健康関係は外部ともしている。

委員 食育は人材育成のところで包括できると思っていた。多摩市独特の食べもので人と人がつながる一つの具体例になると思った。縦割りを横につなぐことができるかと望みをもっている。食べ物の関心は皆強いから。

委員 食育の担当は？

事務局 健康福祉部だが、地産地消で他の部署とのからみがある。

委員 市民がやる生ごみの処理を、市民農園とセットさせてごみを減量させる。食べ物を媒介させると いろんな課がかかわり市民のいろいろな人がかかわることができる。4月からごみの有料化があるのできっかけとしてできれば。全員がやれるものではないが、他の自身体もやっているので多摩市もできれば。

委員 食育はどうするか？ 人材の活用でカバーできると思うが。市の活動を求めるのか、それとも自分たちがやるので多摩市に助成してもらうのか？ 当面は人材活用にしぼってやる。次回は市民情報センターの話を聞き、次々回にはまとめる。それを区切って白書をやる。

事務局 次回の日程は11月14日(水曜)。12月13日(木曜)。

委員 これにて終了する。お疲れ様でした。